

ヘルマン・ヘッセの詩「書物」の一節に「この世のあらゆる書物もおまえに幸福をもたらさない。だが、書物はひそかにおまえ

# フリー便風 (現場)からの

宮田守男

自身の中に立ち帰らせると。確かにコロナ禍での自宅で過ごすあり余った時間、積読状態だった諸本を読む時間が多かった。

ノーベル物理学賞を受けた益川敏英・京都大学名誉教授はインタビューで「のりしろ」の多い人生を送ったといふ。余裕のない人生は送りたくないし、好きなことを自由にやりたい。面白いことがあれば何にでも手を出す「のりしろ文化」を実践した。ゆとりの意味で、おまえに「心の自由に置き換えた」と。これら的人生を前向きに捉えました。

アンを「アスリート」として捉えるというコンセプトがしっかりと定着していた事だ。

長野五輪では、ORは、現在とは違い「身体なり何なりに障がない」と思っている人が頑張る姿を応援しました。

## 心の自由を抱き続けることが大切だ

えで行かなくてはと考えさせられる。

北京パラリンピックで参加選手の活躍をテレビ映像で楽しむ機会が多かった。何よりうれしかったのは、パラリンピックを「スポーツ」としてパラリンピ

ー」として所属して、主にテレビ番組の制作に関わっていた村山隆さんだつ

た。その後信越放送総務部付部長で(株)コンテンツながの取締役として白馬村の観光発展にも尽力いただいた事を思い出した。この頃との信越放送はラジオとテレビにプラスして事

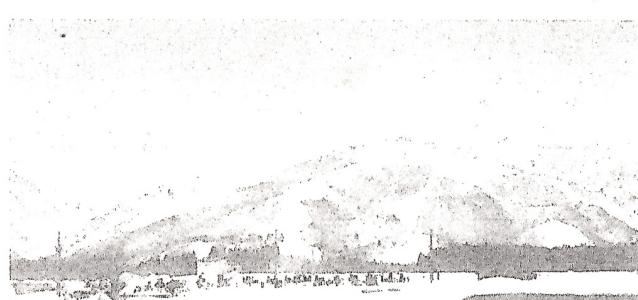
業、イベント・コンサート・美術展開催や出版関係も活発で長野パラ式会場のプロデューサー、番組制作の責任者としても活躍。長野パラでは長野県中野市出身の久石譲氏が総合

議は信越放送の会議室だった。博報堂、共立ブランディング、信越放送事業部、白馬村実行委員会の担当者会議は長時間の激論が繰広げられました。この会議に参考した、情熱ある人との、本当に良い出会いでもあった。

長野五輪。パラでの白馬エリアでの事業筋は、農業関係者への取組検討会

れた。この会議に参考した、情熱ある人との、本当に良い出会いでもあった。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



3月中旬の積雪状況は観光関係者には朗報だが、農業関係者は雪解けが気がかりだ